

# Dzieła wybrane

Solaris  
Flasho  
Szpital przemienienia  
Provokacja  
Biblioteka XXI wieku  
Głos pana  
Katar

## スタニスワフ・レム コレクション

Fantastyyczny Lem  
Wysoki zamek  
Rozprawy i eseje

全6巻

国 書 刊 行 会

Stanisława Lema

日本の読者へ

幸いなことに、私の本は日本でも歓迎され、かなり好意的に受けとめられてきました。しかも、これまで日本で出版されてきた著作、そして今回コレクションに新たに収められる著作のタイトルをつくづく眺めその少なからぬ部数を考えあわせると、日本の読者は世界でも最も成熟した、意識の高い読者ではないかという印象を受けます。もちろん、文学の場合、超えがたい言語や文化の壁をどうにもするのはないのと同じです。これは私自身にとっても思いがけない贈物です。

二〇〇三年三月 クラックフにて

スタニスワフ・レム

文系から理系まですべてを網羅する桁外れの知性  
《主観》を超越した強靱な論議の精神と人間観察力  
SFのみならず世界の文学に新たな地平を切り開いた  
スタニスワフ・レム本邦初の選集

2004年夏刊行開始

四六変型・上製カバー 平均400頁  
予備／平均2500円

既刊

完全な真空 2100円  
虚数 2520円

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15  
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

お取り扱い書店

レムの小説はこれまで数多く邦訳され、日本の読者にも愛読されてきたが、今回はそれらの著作の中でもとりわけ重要なものを現在の視点から選び直し、また未訳のままだった傑作の数々をすべてポーランド語の原典から新訳することになった。

ここではレムの原点というべき、戦後間もないポーランドで書かれた純文学大作も、幼年時代を回想したみずみずしい叙情的な自伝も、そして鋭利このうえない文学評論の数々も、初めて紹介される。またSF小説では、あの名作『ソラリス』を初めとするよく知られた長編が装いも新たに登場するとともに、未訳だった最新作も収められ、またポーランドの批評家・読者の人気投票にもとづくベスト短編集もシリーズの最後を飾る。作品の選定に際してはレム氏本人の助言を受け、構成には彼の意向を十分に盛り込むことができた。つまりこの著作集にぎゅっと凝縮されたのは、レム自身も納得すみの「レムのエッセンス」なのだ。

沼野充義

# ソラリス

沼野充義訳

ほぼ全域を海に覆われた惑星ソラリス。その謎を解明すべく研究ステーションに乗り込んだ心理学者ケルビン。眠りから目覚めた彼のもとには、今は亡き恋人ハリーの似姿が出現していた……。『生きている海』をめぐって人間という存在の極限を描き、タルコフスキー、ソダーバークによって映画化された傑作長篇。ポーランド語からの新訳。

4-336-04501-1

# フィアスコ(大失敗)

久山宏一訳

任務に失敗し自らをガラス化した飛行士バルヴィスは、二十二世紀に蘇生して太陽系外惑星との遭遇任務に再び志願する。不可避の大失敗を予感しつつ新たな出発をする「人間」を神話的に捉えた、レム最後の長篇。

4-336-04502-X

# 変身病棟・挑発

関口時正・長谷見一雄訳

ナチス占領下の精神病院を舞台に、患者を守る無謀な試みに命を賭す青年医師の姿を描いた処女長篇のほか、ナチスによるユダヤ人虐殺を扱った架空の歴史書の書評「挑発」や「二分間」などメタフィクショナルな短篇五篇を収録。

4-336-04504-6

# 天の声・枯草熱

深見弾・吉上昭二・沼野充義訳

偶然受信された宇宙からのメッセージは何を意味するのか。ニュートリノ天文学に関する学者たちの論議をひまえながら、人間の認識の不可能性をつつ「天の声」に、ナポリで起きた連続性死事件をめぐる確率的ミステリー「枯草熱」をカップリング。

4-336-04503-8

# 短篇ベスト10

関口時正・沼野充義・芝田文乃訳

二〇〇〇年にポーランドで刊行されたベスト短篇集をもとに、「ロボット物語」や「泰平ヨンのものから」三人の電騎士「マスコ」「アルミノス」「ドンダ教授」「泰平ヨンの第二十一回の旅」など十篇を集めた新訳アンソロジー。

4-336-04505-4

# 高い城・文学評論

芝田文乃・沼野充義・加藤有子・井上順子ほか訳

ルヴフで暮らした少年時代を、情感豊かに綴った自伝「高い城」に、ディック、ウエルス、ドストエフスキー、ボルヘス、ナボコフといった作家論や、「SFと未来学」「偶然の哲学」といった主要評論からの抄訳を収める。

4-336-04506-2

スタニスワフ・レム……1921年、旧ポーランド領ルヴフに生まれる。医科大学卒業後に詩や小説を発表し始め、長篇「失われざる時」三部作を完成（第一部が「変身病棟」）。地球外生命体との遭遇を描いた三大長篇「エデン」「ソラリス」「砂漠の惑星」(原題「無敵」)のほか、「金星応答なし」「泰平ヨンの航星日記」「宇宙創世記ロボットの旅」など、多くのSF作品を発表し、その第一人者として高い評価を得る。同時に、サイバネティクスをテーマとした「対話」や、人類の科学技術の未来を論じた「技術大全」、自然科学の理論を適用した経験論的文学論「偶然の哲学」といった理論的大著を発表し、70年には現代SFの全2冊の研究書「SFと未来学」を完成。レムは同書中で、現代SFの九割以上はSF本来の可能性を無にしている駄作であるとの批判を展開している。70年代以降は「完全な真空」「虚数」(いずれも小社刊)「挑発」など、メタフィクショナルな作品や文学評論のほか、「泰平ヨンの未来学会議」「泰平ヨンの現場検証」「フィアスコ(大失敗)」などを発表。小説から離れた現在も、独特の視点から科学・文明を分析する批評で健筆をふるっている。